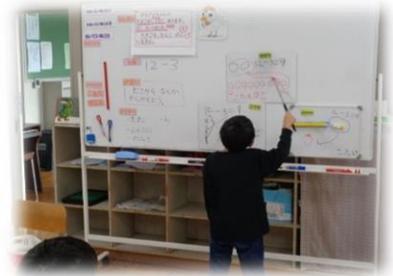
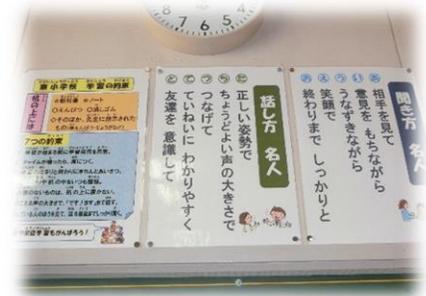
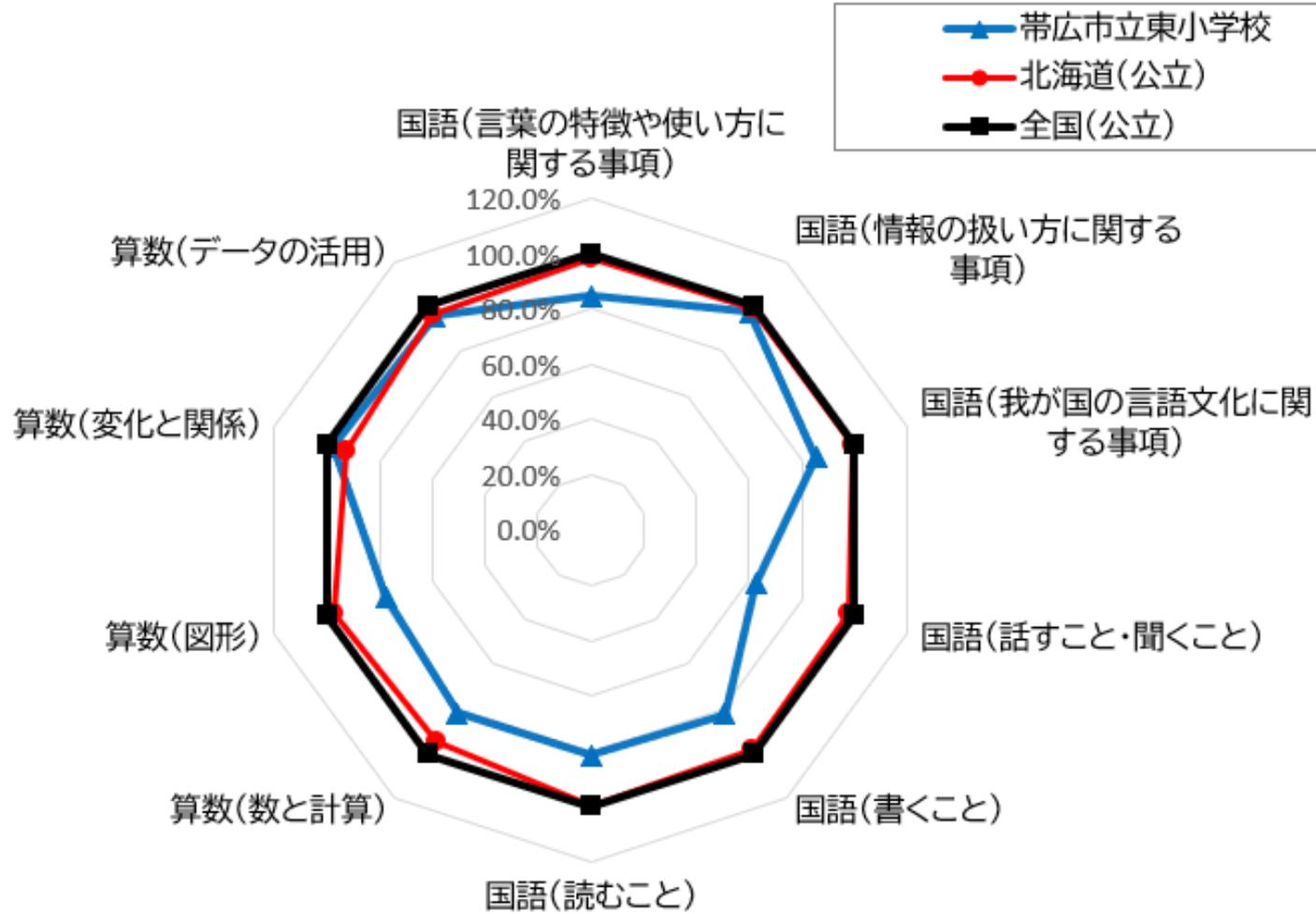


令和6年度 全国学力・学習状況調査を受けて



令和6年度 全国学力・学習状況調査を受けて

【国語】

平均正答率では、全道・全国平均を大きく下回った。設問ごとに見ると、「話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる設問」、「情報と情報に関係付けたり、図などによる語句と語句との関係を表したりすることができるかどうかをみる設問」、「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる設問」の正答率については、全国・全道と同程度となった。その一方で、「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる設問」、「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる設問」、「文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる設問」の正答率に課題が見られた。正答率が低い問題では無回答率が高くなる傾向にあるが、全国・全道に比べるとその割合は低く、学習に対する粘り強い取組がみられる。全体としては、「国語は大切だ」「国語は将来役に立つ」と答える児童が多い一方で、「国語が好きだ」と答える児童が全道・全国平均より低い実態があり、学習の目的を自覚し、学ばよさを実感できるような授業改善が必要である。

【算数】

平均正答率では、全道・全国平均を大きく下回った。設問ごとに見ると、「角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる設問」、「簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる設問」、「示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる設問」の正答率については、全国・全道を上回っている。その一方で、「計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる設問」、「球の直径の長さとお立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる設問」、「除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる設問」の正答率については、全国・全道を下回った。正答率が低い問題では無回答率が高くなる傾向にあるが、全国・全道に比べるとその割合は低く、学習に対する粘り強い取組がみられる。全体としては、国語と同様に「算数が好きだ」と答える児童が全道・全国平均を下回っている。算数は生活の中で役立つものであり、自分事として学習を進めていくことに課題が見られることから、基礎基本的な計算力を土台とし、学んだことを普段の生活の中で活用する意識を高める指導を充実させていく必要がある。

【学力・学習状況より（全国・全道と比較して）】

- 早寝早起きの習慣が身につく、朝食を毎日食べている児童が多い。
- 自己有用感については、ほぼ全国比と同様である。
- 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることが多い児童が多い。
- 人を助けたり人の役に立ちたいと思っている児童が多い。
- 学習に対する粘り強い取組がみられる児童が多い。
- 自分には良いところがあり、相手から認められていると思う児童が多い。
- タブレットPCの利活用については、かなり効果的に進んでいる。
- 携帯電話やスマートフォン、タブレットPCの使い方について、家の人との約束を守っている児童が多い。
- △学校の授業時間以外に、普段、1日1時間以上勉強する児童が少ない。
- △身の回りの地域や社会への視野を広げていくことを意識する必要がある。
- △見直しなどのふりかえりの方法や時間の持ち方に課題が見られる。
- △国語・算数ともに好きと答える児童が少なく、自分事として捉え学習を進めていくことに課題が見られる。

【今後の取組】 ☆学習意欲を育むために☆

- 学級づくり
 - ・ 人間関係、学習環境に配慮し、安心して学べる環境をつくります。
(認め合う人間関係・学習の約束の定着)
- 授業づくり
 - ・ 子どもの疑問や予想を大切に、授業を展開します。
 - ・ ねらいやゴールを明確に示し、見通しをもてるようにします。(達成感を味わえるように)
 - ・ 多様な学習活動を、計画的に取り入れます。
(読書活動・個別学習・難しい課題への挑戦・体験的学習・共同学習・タブレットPC学習)
- 気持ちづくり
 - ・ 普段の学習と生活とのつながりを意識し、生かしていけるようにします。
 - ・ 振り返りの場面を大切に、自分の思いを調整しながら進んでいく姿勢づくりをサポートしていきます。
 - ・ 自分のよさを感じとれる場を意図的に設定し、自己を見つめ、将来に目標をもてるようにします。